令和7年度 佐久市総合計画審議会第1部会（第2回） 議事録

日時：令和7年7月25日（金）

午前10時～11時30分

場所：佐久市役所 議会棟 全員協議会室

【出席者】高橋部会長、小松副部会長、伊坂委員、池田委員、太田委員、鈴木委員、小嶋委員、三石委員、大井委員

【事務局】市村企画課長、小林企画調整係長、鷲見主任、中澤主任、

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（柳澤委員、北山委員）

2 議事

（1）第二次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理について

質疑、意見

事務局	①第1章 生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくりについて説明 ②「幼児教育」について説明
部会長	質問、意見等あるか。
委員	幼稚園の保育機能を高めることが大きな課題になっていると聞かすが、佐久市の待機児童は現在どの程度いるのか。
事務局	待機児童はいない。厚生労働省において「待機児童」を定義しているが、保育の必要性の認定を受けているにもかかわらず施設の利用できない児童を指す。ただし、待機児童はいませんが、希望する園に入れられないという方は、少なからずいる状況である。
委員	認定子ども園や新制度によって保育ができる幼稚園が増えることは良いと感じるが、幼児教育と聞いた時に、保育の内容について心配している。特に保護者との問題があると聞く中で、保護者教育をしてかないと、本当の意味での保育幼児教育はできないと感じる。そういったところまで踏み込まないのか。ここではあ

	<p>くまでも施設面や保育を引き受けるという内容に絞られており、幼児教育の内容そのものに対する問題についての組み込みがない。</p>
事務局	<p>中身の充実という部分では、園それぞれの個性を持って行っているところではあるが、基本的には、どの園でも同じような保育が受けられるようになっている。</p>
委員	<p>幼児教育は文科省の関係になるため教育環境を整えて行かねばならない。子どもを育てなければならない中で、例えば、母親教室を充実させるとか幼児教育に繋がるような考え方も必要になるのではないかと考える。</p>
事務局	<p>受け入れ環境としてどうなのかという評価を受ける中で、その教育の中身についても非常に重要であり、担当課を含めて問題意識を持って今後の取り組みを検討する。</p>
委員	<p>今現在の正規職員と会計年度任用職員の比率はどうなのか。子どもたちを教育するにも職員の教育が大事でないかと思う。また、各保育園に男性の職員はどの程度いるのか。男性の職員が保育園に1人でもいれば、何か問題あった時に女性職員とは違った対応ができるのではないかと考える。</p>
事務局	<p>令和7年度4月時点における保育士数について、正規職員は本庁勤務保育士及び育休等職員も含め113名で、そのうち男性職員は12名になる。また、会計年度任用職員は常勤及び医療ケア看護師含め192名で、そのうち男性職員は2名になる。</p>
委員	<p>保育士の方に何うと仕事量が非常に多いとの意見がある。子どもに関わるだけでなく、工作の準備や劇で使用する衣装の制作など自宅に持ち帰ってまで仕事をしている状況である。一昨年前から、保育士の資格がなくても保育以外の事務的な仕事で保育士をサポートする保育補助員の募集を始めているが、採用状況を教えていただきたい。親としても、保育現場の環境が整い、保育の質問が向上すると安心できるのではないと思う。</p>

事務局	<p>昨年度は4名の採用である。1年ごとの更新であるため、引き続き募集を行う。</p>
委員	<p>カトリック用稚園では年長の子どもたちに柔道を教えている。その時から運動に接することは非常に大事なことであると感じており、この他の幼稚園や保育園でも何かしらの運動を取り入れられれば、子どもたちの成長に繋がるのかなと思う。</p>
事務局	<p>幼稚園教育、保育の中身が非常に重要であることを再認識した。関係課を含めて、問題意識を持って中身の充実に務めていく。</p> <p>③「学校教育」について説明</p>
部会長	<p>質問、意見等あるか。</p>
委員	<p>1人1台タブレット端末を子どもたちが持っているが、実際に子どもに聞くと、自習になったらYouTubeを見たり、面白い画像を見たりしている状況である。そういった利用では良くないのではないかと思う。実際に理科の授業では使っているが他の授業では使っていないと聞いており、先生によって授業で取り入れているクラスもあれば、そうではないクラスもあるなども聞く中で、状況を把握しているのか。あるいは、授業の何パーセントはタブレットを使用することなどのガイドラインはあるのか。</p>
事務局	<p>ガイドラインはないが、先生によって得手不得手がある中で、先生たちのタブレットを利用した授業づくりについてボトムアップしていくことは大きな課題であると教育委員会において認識している。現在、GIGAスクールが始まって浅い中で、学校全体で利活用が均一的に進んでいくために、教育委員会としても力を入れているところであり、ご指摘いただいたことは担当課を含めて状況把握に努める。</p>
委員	<p>タブレットの利用は子どもたちの方が長けており、特に中学生は、独自にセキュリティを操作している間に解除方法を発見してしまい、そういった情報が学校内で広まり、閲覧制限がかかってい</p>

事務局	<p>るサイトも見られる状況が出てきている。各学校や各クラスによって状況は様々であろうが、タブレットの利用頻度によって大きな差も生まれてしまうのではないか。教育の底上げをするにも、利活用に差が生まれないようにするべきではないか。</p> <p>タブレットの導入から約5年経つ中で、中学校では、来年度更新の時期を迎えるかと思われる。ロックの解除の制限やセキュリティの担保など含めて、次期調達時にはしっかりと対応していきたい。</p>
委員	<p>主に教育とは、国や県の指示あるいは教育委員会の指示に従って下へ降りてきて一立的な教育となっている。ある意味ではベースを揃えるという意味では、非常に大事なことであると思う。例えば、市としての独自性を出した教育は可能かどうか。コミュニティスクールに所属する中でいろいろな話を聞くが、現在大学入試において、人間性を見るものになってきている。そういった中で、ある程度小中学校の中で独自性が作れるのかどうか。そういった学びが将来の自己PRにもつながるのではないか。また、先ほどタブレットの話題が出たが、今の若い世代よりも上の世代からすると、想像する中で一番身近なものとして、電卓が出てきた時の感覚が近いと思う。自分で入力すれば答えが出てくる、要は与えられたものを生かしていくということではあるが、タブレットを利用するにも、その教育の目的があり、そこに向かうために自分で考え経験をするのであって、そういった過程を大事にした学習も必要ではないか。</p>
事務局	<p>以前、野沢中学校で講義をしたが、野沢中学校の先生たちが新たに取られる授業として、自分たちの地元のことをもっと知ろう、関わろうという探求をテーマにしたもので、独自性のある学習が各学校においても行われ始めている状況である。</p>
委員	<p>先生方の負担が非常に大きいとよく聞くが、採用試験を受ける方の減少や、途中で辞める方もいて、こういった状況を改善する余地が当然ある。先生方の業務も、少しずつ改善されてきているが、特に先生方が負担に感じるものが何かを聞くと、授業を準備する時間が持てないことがあげられた。準備時間確保のために残</p>

事務局	<p>業したり、持ち帰ったりしている状況である。先生を目指す方が就職した際に、現状を知ってマイナスに捉えないような体制づくりも大事であると思う。</p> <p>先生方の負担については、部活動地域も含めて改善しながら、授業の準備に十分時間を割けるように、国、県、市が共通認識において取り組んでいるところである。</p>
委員	<p>残業時間が非常に多く、その1番の原因とすると、中学校であれば部活である。外部指導員の問題や地域移行など各地域において非常に難しい現実があり、その受け皿が見つけにくいことから、その問題解決に努めていただきたい。それをやっていただけないとあの教員の時間は確保できない。</p>
委員	<p>部活動に係る審議会に所属しているが、地域移行を進める中で、各競技の資格を持った人材を登録しているところである。中学校の先生の負担を減らすことも大切ですが、子どもたちを犠牲にしてはならない。中学校に入学して部活がない場合、他の中学と一緒に合同練習ができるようにするなどが必要である。その中で、部活動指導員との記載があるが、どういった業務を行うのか。監督や指導者という意味か。</p>
事務局	<p>部活動指導員は、指導する立場ではなく、顧問がいない場合、外部指導者のみでは引率することができないため、それを補う役割である。</p>
委員	<p>中学校に入学した際いろいろな部活があるが、やりたい部活がない時に、仕方なく別の部活に入部するという生徒が多いと聞く。そういった時に、地域移行しているクラブなどの紹介や、相談にのってくれるような体制づくりが必要であると感じる。そうすることで、子どもたちの選択肢が広がる。急にはできなくても、地域移行していく中で取り組んでいけば2年3年後には良い体制が整うのではないか。</p>
委員	<p>各部活動の中でもある程度人数が必要な競技が、部員の減少によって組みにくくなってきている。また、スポーツの他に、文化</p>

	<p>部についても、中学校合同で行う必要がある。地域移行を進めるにしても、学校教育の一環として、その活動にどのレベルまで求めるのか。県で優勝するなどのレベルを求めるとなると、そのレベルについていけない学校や先生の負担は非常に大きいと思う。朝も夜も部活動することが良いのかどうか。現在の大学のスポーツの状況として、分析して集中して短時間に終わらせようと、主体性を持った活動に移行してきている。そういった活動を取り入れて、義務教育の中の部活は高いレベルのものを求めなくてもよいのではないかと感じる。例えば、高いレベルを求めるのであれば、クラブチームに所属するなども1つの選択肢になるのではないかと思う。</p>
委員	<p>「学びの転換」という言葉があるが一般的な表現か。市長も「自走する学び」という言葉を使っている。一般的ではない言葉であるが、自分から学んでいく、自分で調べていく、自分で乗り越えていくなどの学習を大事にしたい、そういう力をつけたいということはわかる。ただその力をつけるためには基盤となる力もなくてはならない。智は力という部分が必要であるため、それぞれを繋いでいかなければ、学びの転換にはならないと感じる。そのため何をしていかなければならないのかを振り返る必要があるが、そういった記載がない。そのために中身をどうしたいのか、それに対して何をしなければならぬのか検討していかないと改善されないのではないか。</p>
事務局	<p>ICT も学びの転換ではあるが、過程が大事であると再認識している。市長が学びの伴走者などいろいろな話をされているなかで、それがどういった意味なのかを分かりやすいように整理したい。</p>
委員	<p>学びの中で、例えばコミュニティスクールにおいて子どもたちが地域へ出て調べるということも大事なことであるし、ICT だけではなく図書館での調べる機能を充実させていくことについても考えていかなければならない。複合的に考えていくことが必要である。</p>
委員	<p>教育の現場は本当に大事な場所であり、子どもたちは佐久市の</p>

	<p>宝だけではなく日本の宝でもあるため、しっかりと佐久市の特徴や魅力をも子どもたちに知ってもらい、地域が一体となって子どもたちを育ててくという仕組みができれば良い。「学び」は資格のある人、教職員が子どもたちに教えるだけではない。地域の人たちがみんなで子どもたちを育てていけるみたいな体制が整うと親としても安心できると感じる。別件で、最近非常に気になっているのが、盗撮に関する報道です。非常に悪質な事件がある中で、先生方の資質向上につながるような研修など行っていただき子どもたちを安心して預けられる教育現場であって欲しいと思う。</p> <p>④「高校教育・高等教育」について説明</p>
部会長	質問、意見等あるか。
委員	SAKU コスモス育英基金奨学金は新費給付実績が 12 人で、申請者は 20 人であり、8 人が不採択であったということであるが、どういった審査になるのか。
事務局	申請者の家族の所得と申請者の成績を総合的に判断し、審査会の中で選定している。
委員	今回申し込みは 20 人であったが、上限は決まっているか。
事務局	基金を運用しているため金額の上限があり、人数の制限が必要となる。対象とならない方には、日本学生機構の奨学金を活用していただくよう案内している状況である。
委員	各種奨学金や給付金の説明を各高校で行っていると思うが、学生を対象にまとめて説明したと聞いている。学生にとっては奨学金や給付金などよくわからない中で説明され、学生本人がよくわからないまま説明を受けたことの署名をしている状況がある。保護者対象の説明会をすればよいが、保護者に説明はない状況である。また、保育士の就学資金奨学制度の関係で、佐久市の保育関係に就職すれば返還不要であるが、実際に就職してみると 1 年目の新人への負担も大きく、保育に関して実績がまだない中で業務を任されており、精神的にも辛くなる中で、奨学制度の縛りもあ

事務局	<p>り辞められないということがある。こういった制度を利用した場合の後追い調査を行っているのか。</p> <p>奨学金は使いやすいものであるべきで、説明会についても対象が生徒なのか保護者なのか、そういった周知の仕方も工夫しなければならぬと感じる。保育士の奨学制度も含めて学校教育課で所管しており、現在、使いやすくするにはどうした良いか、どうしたらもっと使ってもらえるのかなどについてアンケート調査をしているところである。調査結果において、より使いやすい奨学金となるよう改善することとしている。</p>
委員	<p>高等教育機関と連携することは非常に大事であると思う。今も取り組まれているかと思うが、佐久大学の先生に市の審議会や委員会に入ってもらったり、市の事業で学生にもかかわってもらったりすることが必要ではないか。高校においても同様で、消防団には高校生から入れることから呼びかけをしていくなど、様々な形で繋ぐができるのではないかと思う。地域を繋いでいく活動をどうやって作っていくのかを検討していくことが必要である。</p>
委員	<p>奨学金であるが、これは佐久市独自の特色ある制度ではないと思う。どこの自治体でもやられていることであると思うが、使いやすくするということは非常に大事なことで、制度があっても申し込みが無ければ何の意味もない。先ほどもあったが、高校生はまだ学校の中での生活が主体で、社会との関わりや、制度的なものについて説明を受けても理解することは難しいと思う。保護者は金銭的なものだとか家計のこともよく理解しているため、保護者対象の説明会は必要で、その中で利用するかどうかを判断すればよいと思う。</p>
事務局	<p>改善に努める。</p> <p>⑤「青少年健全育成」について説明</p>
部会長	<p>質問、意見等あるか。</p>

高橋委員	<p>二十歳のつどいの参加者数は698人ということだが、佐久長聖高校や市街から通っていた方も対象となっていたかと思う。地元の二十歳のつどいに行っても、高校の時の同級生があまりいないから行きたくないということがある。そういった情報を子どもたちは知っていても、保護者に向けても周知してほしいと思った。</p>
事務局	<p>参加希望者は市内市外関係なく申し込みをすれば参加できる。住民票がある方にははがきで通知し、ない方は市のホームページやSNS等でご確認いただき申し込んでいただいている。</p>
委員	<p>ジュニアリーダー研修や銀河連邦子ども留学交流、エストニアやモンゴルとの交流など長く続いている中で、ただ継続するだけではなく、見返すことが重要である。</p>
委員	<p>中学生の海外研修は補助が出ていたと思うが、各家庭の費用負担はどのような状況か。</p>
事務局	<p>各家庭の費用負担は3割になる。当時、あの、竹下内閣の時のふるさと創生金を積み立てて、その基金を運用している。</p>
委員	<p>区において、高齢化や人口減少もあり、住民の負担が大きいということから、役職を減らす必要性が出てきており、育成会については、新たな役員を配置せず、自治会から求めないこととした。実態として、育成会の地区の活動はPTAの活動とほぼ同じような形になっており、レクリエーション的なものが中心になって地域の結びつき文化っていうものが希薄になっている状況である。こういった中で、イングリッシュキャンプや海外研修などのような外の世界を体験していくような取り組みが非常に大事ではないかと思う。</p>
小嶋委員	<p>外に向くことも必要であるが、子どもたちを育てるためには内側に向くこと、つまり自分の地域に目を向けさせることも非常に重要である。最近の子どもたちは部活の影響からか中学生は区の活動に全く来ない状況である。小学生は地域に関わるが、中学になると全く関りがなくなる。地域の中で育つ部分は多くあり、どうやって健全育成を行っていくのかということの必要性を感じ</p>

部会長	<p>ている。子どもたちと地域の中で一緒に活動したり一緒に文化を楽しんだりすることが大切な育てになると思う。</p> <p>⑥「文化・芸術」について説明</p> <p>質問、意見等あるか。</p> <p>なし</p>
部会長	<p>⑦「生涯学習」について説明</p> <p>質問、意見等あるか。</p> <p>なし</p>
部会長	<p>⑧「スポーツ」について説明</p> <p>質問、意見等あるか。</p> <p>なし</p>
部会長	<p>⑨「人権尊重社会」について説明</p> <p>質問、意見等あるか。</p>
委員	<p>隣保館は地域に開かれた施設という感覚でよい場所か。</p>
事務局	<p>問題ない。</p>
委員	<p>隣保館を伺った際に、ここはどういう施設なのか分かっているのかと職員に問われたことがある。地域の人が多く訪れてもよいし、交流してもよいしという感覚で、偏見を持って行ったわけではないが、そのような返し方をされたことがあり、市の職員が過度に意識していることで、逆に行きづらい場所になっているのではないかと感じたことがある。周辺地域住民との交流推進に向けた取り組みは非常に良いと思う中で継続してほしいと思う。</p>

事務局	関係課の職員に報告する。
委員	<p>近年人権感覚がかなり落ちている気がする。外国人問題もそうだが根本的なところでも本当に難しい時代である。特に、人権同和問題については、現在あまり取り組まれていないことが問題であると感じており、最近では女性差別の問題や、職業差別の問題などが取り上げられている状況である。人権同和問題を避けてしまうため子どもたちも学ばないし、部落差別がなぜ起きたのか、その歴史について学んでいる人も少なくなってきたおり、もう一度指導してく必要があると感じる。かつて同和教育推進委員がいたが、そういう意味で非常に手薄になってきており見直す必要がある。現状、人権同和問題に関して若い先生方は全くわからない状況である。そういった教育をやろうとしてもなかなか進まない状況である。</p>
委員	<p>同和教育推進委員の高齢化により、指導してくれる先生、専門の先生などを要望しているが、難しい状況である。SNSの問題においては、各部落の場所を投稿したりするなど、部落解放同盟で裁判をしてもなかなか決着がつかない状況である。</p>
委員	<p>SNSにおいては、全く差別感覚がないまま投稿されてしまう。投稿が誰かも分からないできてしまうことの怖さがある。</p>
委員	<p>男女共生ネットワークの人権男女共生フェスティバルで「カバ」を上映したが、本当に感動し、胸を揺さぶられるような内容であったが、こういった啓発運動もしっかりと行うべきだと感じる。人権問題は寝た子を起こすとも言われるが、そうではなくてしっかり知っていくことって大事である。その根底にあるのが教育であると思う。</p>
	<p>⑩「男女共生参画社会」について説明</p>
部会長	<p>質問、意見等あるか。</p>
委員	<p>女性大学を卒業すると、女性人材バンクに登録して、時間があれば会議に出席してなど、断るに断れない状況がある。ただし、</p>

	<p>実際に参加すると、一市民が直接行政に対して意見が言える貴重な機会であるし、興味ある体験ができるため、女性大学を卒業したから行政の委員会や審議会に参加していただきではなく、卒業生で行政に関わっている方たちから意見を集め、最初の周知や応募の段階で卒業後には、こんなことで活躍できるみたいな、自分から参加したいと思えるような工夫が必要である。また、応募内容においても、内容がよく分からない、書いてあることが難しすぎるみたいなことがあるため、実際の取組みについて分かりやすくする必要はある。また、本日の審議内容は子育ての経験がある方や子育て中の若い世代の助成にも参加してもらえるような状況があると幅広い意見を集めることができたのではないかと思う。</p>
事務局	<p>女性大学卒業生について、その後、市政に関わることは負担であると感じていたが、やりがいを感じていただけことは非常にありがたいことで、そういった感想を市の広報誌に載せることを含め、興味を持った方が分かりやすい内容になるよう努める。</p>
委員	<p>男女共生ネットワークにおいても、この男女共同参画社会の実現に向けて様々な講座を開いているが、先日の講座でデートDVをテーマに開催し、30人、40人ぐらいの会員が参加したが、集まるのは男女共同参画社会を意識している人たちが集まって聞いている状況で、聞いて欲しい人に聞いてもらえていないということを実感した。例えば、区長会で男女共同参画社会について話をさせていただけないか。意識を持ってもらいたい人にどうやって広めていくのか難しい状況である。男性と女性は体格も違うし特質も違うから平等に公平にしていかなければならない。現在では、男性が女性がという社会はだんだんとなくなっちはきているが、気をつけなければならないことが多くある。</p>
委員	<p>人間社会においては自分ができないことを誰かにやってもらう、誰かがやってくれるため、男女の関係において、女性にとっては肉体的な労働的なことは不向きであると思うが、それをみんなが同じに見るのではなく、それぞれができるところやる、みんな違うところがあってそれは当然だという認識において対応することが必要ではないかと思う。</p>

委員	精査そのものを大事にするのではなく、精査を生かすことが大事なことであると感じる。
委員	最終的には男女ではなく、お互いの得意分野を頑張ってもらい、できないところは補ってもらい、自分がやれることは一生懸命やるということが非常に大切であると感じる。それぞれの特質を生かして、できないところはできない、できる人に任せられることが当たり前になるとよい。時間はかかるかもしれないが、しっかりと着手しなければならない問題だと思う。
委員	学校現場において生徒指導員というと大体が男性であるが、女性の生徒指導員も必要である。まだ子どもであり、女性が来ることによって心が救われることがある。男性では見えてこなかったことも、女性は見てくれるということがある。そういう環境を作ることも大事なことであると思う。
委員	女性の奥ゆかしさや謙虚さが悪い方向にいかないように、女性も前に出ようという環境になると良い。女性に活躍してもらいたいと思う。

(2) その他

部会長	(2) その他について、事務局から何かあるか。
事務局	次回の開催は、8月20日(水)午前10時から、佐久市役所6階602会議室となり、第6章、第7章に係る審議を行う予定
部会長	全体を通して何かあるか。 ないようなので、以上で本日の全ての審議を終了とする。

3 閉会